



令和5年度に目指すもの

副代表 三宅 信彌

ここ数年の「新型コロナウイルスの感染症」に翻弄された時代がようやく過ぎ、アフターコロナの時代として景気は回復の兆しを見せており、各地の観光地にも多くの観光客が訪れるようになりました。

当ボランティアガイド協会では、去る4月18日の定期総会で今年度を目指すものとして、①京田辺市の観光振興に寄与する、②観光協会との連携、③SNSの活用強化やIT、コミュニケーションツールの徹底活用、④国際化対応等を事務局、研修部、広報部及び企画部の各部の事業計画に基づき事業を進めていくこととしております。

昨年度は、647人のお客様をガイドいただきましたが、今年度は、4月以降に実施したハイキングや5月の「家康公伊賀越えの道を巡る」では、早々に定員に達するという状況で、多くのお客様をお迎えしています。

京田辺市には、多くの古墳や誇るべき歴史と豊かな文化に育まれた観光資源が多くあり、その存在と価値を広く周知することで、「京田辺へ来てよかった」「もう一度、京田辺を訪れてみたい」と言われるように、満足度ナンバーワンを目指して、この4月から加わった新たな10名のボランティアガイド（9期生）共々全員一丸となって奮闘したいと思います。



(写真：第16回定期総会の様子)

管外研修報告

～毛馬閘門 & 大阪造幣局博物館～

当ガイド協会では会員のスキルアップとチーム力を高めるために例年管外研修を行っています。令和4年度は、木津川「神矢樋門」や「草内の渡し場跡」などとの関連性から、淀川「毛馬閘門」見学と「大阪造幣局博物館」観覧を実施しました。

閘門とは水位の異なる河川や運河、水路の間で船舶を安全に通過させるための施設で、毛馬閘門は太平洋と大西洋を結ぶ「パナマ運河」と同様の方式だそうです。

今回は都市部行動なのでJR利用とし、東西線「大阪天満宮」下車、明治4年4月創業の大阪造幣局へ向かいました。造幣博物館は昭和44年開館で大判小判や20円金貨など貨幣の歴史が一目瞭然。滑り台のような硬貨分類器による硬貨の完璧な着地には思わず拍手！

その後、大阪の中心部を流れる大川（旧淀川）畔を徒歩移動。江戸時代の「源ノ渡し跡」碑で往時を偲び、好天気のもと桜回廊の観桜散歩を楽しみました。



毛馬閘門着は12時半。

ちょうど午後の稼働開始でした。朝、淀川へ川砂利採取に出た作業船が閘門を利用して帰還するシーンです。2枚の大きな扉が閘室で水位調節し、見事に「パナマ運河」を通過するさまが目の前で約30分間繰り広げられました。そんな異次元空間？に皆さん大満足。

帰路は新しい「JR おおさか東線」の「城北公園通駅」から初乗車体験。楽しい大人の遠足でした。（古野）

2023年3月30日（木）実施





ガイド日誌

里山のミツバツツジの小径に行く

～ミツバツツジのトンネルと尾根の小径～

前日の黄砂が残りながらも晴れ間の中、ハイキングには丁度良い日となりました。

松井山手駅を出発。そよ風幼稚園の横を過ぎて、野外活動センターでトイレ休憩をとり、ミツバツツジのトンネルを目指しました！

今年は花の開花時期が早く、少しタイミングがズれてしまいミツバツツジのトンネルは例年より少しもの足りないものとなっていました。残念！！それでもお客様からは「可愛いきれい！」と歓声上がり、ミツバツツジのトンネルの中をゆっくりと歩いていただけました。



新芽が芽吹く甘南備山の小径を歩き、最後に諏訪ヶ原公園では、樹木に詳しいガイドからシンボルツリー（メタセコイヤ・ユリノキ・ケヤキ）などの説明をさせていただきましたが、もっとゆっくり聞きたいとのご要望がありました。

2023年4月14日（金）実施 （窪田曜）

一筆書きで甘南備山を巡る

一休寺でこの日公開の「涅槃図」を鑑賞

朝から雲一つない青空で、最高のハイキング日和でした。

この日のテーマは一筆書きで甘南備山を巡ると一休寺の涅槃図の鑑賞。

マスクを外して甘南備山登山口までウォーミングアップ代わりにゆっくりと歩き、登山口で着衣調整と水分補給の小休止をしました。

一筆書きは横にした8の字の道を、同じ道を歩かないようにコースが設定されています。小径が多い甘南備山ならではの事です。

旧登山道を上る…いきなりの急登で呼吸が苦しくなる…でも、この道を家康も歩いたかもし



れないと思いながら歩きました。道中、梅は白梅が少ししか残っていませんでした。ちょっと残念！

神南備神社にお参りをして展望台で昼食、薬師の小径をへて下山しました。そして一休寺でこの日公開された涅槃図を鑑賞し、住職さんから涅槃の意味や絵解きをうかがい、また庭園の説明を頂きました。生きることは死と向き合うこと。秘められた重いテーマと感じました。

参加者の方からご感想をいただきましたのでご紹介します。

「鳥の囀り、小川のせせらぎ、自然を満喫できました。ユーモアを交えたガイドさんのお話で、脚の疲れが軽減した気がします。^^

年に一度の涅槃図公開の日と言うのも、1日で2度オイシイ。満足度高しです！」

ありがとうございました！

2023年3月15日（水）実施 （保野）

青紅葉の一休寺で座禅体験しよう！

～一休寺のすべてを満喫～

今回のイベントは、コロナ禍のなか毎年中止となり3年目にしてやっと開催できました。

一休寺は、秋の紅葉は有名ですがこの季節の素晴らしい青紅葉を是非体験していただきたいと、常々思っていました。

当日は雲一つない青空のもと43名のお客様にご参加いただき心躍る一日が始まりました。

一休寺ご住職様による座禅体験は、初めての方も経験ある方も無理なくやっていただける内容で好評でした。

高座椅子もご用意いただいておりますので安心して体験できます。

国の名勝に指定された方丈庭園は、心が静まる見事な禅宗の枯山水庭園です。癒されますね。

一休禅師が88歳でお亡くなりになるまで住まわれた虎丘庵、そして廟所。京都府の禅宗様三美仏殿の1つでもある酬恩庵一休寺にはコンパクトな中にも一杯詰まった内容にきっと満足していただけたのではないのでしょうか。

また、ご住職様の久々のお話に感動いたしました。御礼申し上げます。

2023年5月11日（木）実施 （和田）





京田辺市観光ボランティアガイド養成講座修了 新たな戦力として10名が誕生！



©19-004

平成19年4月に設立された京田辺市観光ボランティアガイド協会は2年ごとに新しい会員を募集していますが今年度あらたに9期生を募集しました。

市内の観光に興味を持ち、日本中の、また世界の皆様に京田辺の観光を知っていただくお手伝いをしたいという意欲ある10人の方を迎え、令和5年1月26日に養成塾をスタートしました。初日には産業振興課の方に観光行政の話を伺い、3月16日の修了式まで5回にわたって各地域の観光資源について、先輩の講義を受けました。そしてめでたくここに全員の方が頼もしい観光ガイドとして加わりました。ガイドツアーに参加いただいたお客様には、またぜひ来てみたいと言っていただけの観光ガイドを目指すアグレッシブな新しい仲間たちです。
(熊澤)

地元の観光は全く興味がなかったのですが、イベントで「草木染め」があり参加。現地に向かうまでの観光地以外に樹木や草花の名前等の説明もあり楽しい時間でした。この体験を経て、今度は案内する側です。楽しみです！（みずほ）

趣味は、ミシン、刺繍、ジグソーパズル、お菓子やパン作りなど。世界遺産巡りなど旅行が大好きです。地域についてもっと知りたいと思い入会しました。楽しみながら活動に参加できればと思っています。よろしくお願いします。（みわ）

趣味は音楽を楽しむ事です。入会動機は今まで知らなかった京田辺のことを知りたいと思ったことです。色々教えて頂きたいと思います。宜しくお願い致します。（ようこ）

京田辺に住んで20年。地元をもっと知りたくて入会しました。講座終了後、実際に実施されるコースの下見に参加。さらに興味が広がり、知らないことを知るとは、こういう事なのだと思います。目下「断捨離」に注目中。（こすえ）

京都 SGG（善意通訳）クラブで訪日旅行者のガイドをしています。何か他にチャレンジできる事はないかと思い応募しました。京田辺の良い所を楽しく学び紹介出来たらと思います。映画鑑賞、相撲観戦が趣味です。（けいこ）

長年京田辺に住む私は、地域活動に殆んど関わりがありませんでした。ボランティアガイドの募集を見て、地域に貢献したいと思い入会しました。気軽に自然や歴史を楽しみたいと考えています。サイクリングが趣味です。（こうじ）

趣味は、ラグビー観戦・寺社仏閣巡り。ラグビーW杯仏大会9月楽しみ。入会動機は、たまたま駅の掲示板のチラシを見て。これも縁かな。京都と京田辺の歴史的つながりを知りたいです。ONE TEAMで頑張りましょう。（まさひこ）

趣味は、山歩き、街歩き、写真です。入会動機は、京田辺市をもっと知りたいとの思いと長年住んでいる京田辺で何かお役立ちができればと思い参加させていただきました。足を引っ張らないよう微力ですが頑張ります。（ひでお）

自然を愛し神社仏閣、仏像、石庭めぐりが好きです。京田辺を知り、ガイドとしてアピールしようとの思いで入会しました。先輩諸氏に追いつくのは難しい事ですが、少しでも役に立つよう努力したいと思っています。（よしろう）

百人一首が特技・趣味で、中高では競技カルタをしていました。1年前にハイキングに参加し、ボランティアガイドさんの集客を増やしたいとの想いに触れ、SNSを使って集客を増やし、地域活性化に貢献したいと思いました。（ゆい）

家康公 伊賀越えの道を辿る

「本能寺の変」で家康はどう逃げたか！

NHK 大河ドラマ「どうする家康」も中盤になり、そろそろ京田辺市を通った伊賀越えの道の間が放映されると思われます。

前回 2023 年 1 月 1 日発行の「つつきの第 27 号」では、伊賀越えの道として京田辺の様々な候補の道を上げましたが、今回はその中で、京田辺ボランティアガイド協会と お茶の京都 DMO が一番面白いと思ったコースで、実際に歩いた道をご紹介します。

このコースは、山岡壮八氏著の歴史小説「徳川家康」第 8 巻（心火の巻）の部分参考にし、コース設定をしました。

具体的には、枚方市の尊延寺地区から甘南備山へと向かい、俗名「扇池」（写真下左）の横を通り、甘南備山の雄山と雌山のふもと「大津越え」（写真下右）に出て、そこから薪地区に向かう檜の生い



茂る狭い道を通り（写真下）、薪地区を抜けます。その後、木津川の草内の渡しに向かいます。



この道には、小説中で山岡壮八氏が記述している「左が竹藪、右は崖」という箇所があり、そこは非常に狭く、いかにも家康一行 主従 34 名（一説では十数名）が逃げた道と思われます。そして木津川の草内の渡し（写真右）から対岸に船で渡り、宇治田原方面へ向かったと考えられます。



令和 5 年 5 月 25 日（木）に当コースを実際に歩きました！

このルートを含むハイキングを企画し、50 名を超えるお客様を案内し、非常に好評でした。

今回の大河ドラマ「どうする家康」で俳優田辺誠一氏が演じる「穴山梅雪」の墓（写真右）も飯岡にあり、伊賀越えのルートからは離れますが、こちらを訪れるようコース設定しました。

ハイキングは終了しましたが、個別にガイドは可能です（有料）。当ボランティアガイド協会までお問い合わせください。（田原）



観光ボランティアガイド協会の**ホームページ** があります！
これからの行事予定、天候による行事の可否のお知らせ、**ブログ**でガイドの様子など、見ることができます。
ホームページからハイキングのお申し込みもできます。



<https://kyotanabe-guide.com>

京田辺市観光ボランティアガイド協会

検索



フェイスブック と インスタグラム
からも情報発信中！フォローしてね♪

Instagram

